

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の多様性を尊重し、一人ひとりの成長に寄り添う指導を行うことにより、常に変化する社会の中で、様々なかたちで社会とかがわるることができる人を育てます。 また多文化共生社会で活躍できる人を育てます。 ★多部制単位制の柔軟な教育システム、きめ細かな学習指導と教育相談により「4つの力」を育みます。 1. 学び続ける力 ：主体的かつ継続的に学習に取り組み、努力できる。 2. 他者と関わり生きていく力 ：自分を大切に思うとともに、他者を理解し、思いやりの心を持って行動できる。 3. 課題を乗り越える力 ：さまざまな課題に向き合い、計画を立てて解決できる。 4. 自分の将来を考える力 ：自らの可能性と生き方を見つめ、将来を切り拓いていくことができる。

2 中期的目標

1 「学び続ける力」を育む （1） わかる喜びやできる楽しさを実感できるよう、生徒一人ひとりの課題を把握した学習支援をすすめる。 （2） すべての生徒が積極的に授業に出席し、基礎学力の定着や主体的に学びあう授業づくりをすすめる。 （3） 教員間での相互授業見学、授業研究に向けた研修を通して、教員の授業力向上を図る。 ※学校教育自己診断における生徒の学習満足度 80%以上を維持（R3：81.6% R4：89.1% R5：84.8%）
2 「他者と関わり生きていく力」を育む （1） すべての生徒が安心して学ぶことができるようスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材との連携により、きめ細かな教育相談体制を構築する。 （2） 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーを習得するとともに、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、必要なコミュニケーション能力を高める。 （3） 自分の個性を大切にしながら、お互いの個性を尊重する思いやりの心を育む。 （4） ボランティア活動、地域連携などの取組みにより、自己肯定感・自己有用感を高める。 ※学校教育自己診断における生徒の教育相談満足度 70%以上（R3：72.9% R4：78.3% R5：69.0%）
3 「課題を乗り越える力」を育む （1） 総合的な探究の時間等において、自ら考える力を育み、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、課題を一つひとつ解決する力を高める。 （2） 生徒一人ひとりの背景を把握し、外部人材も活用しながら自ら課題解決に向かう力を高めるよう支援する。
4 「自分の将来を考える力」を育む （1） 職場見学やインターンシップを通して実社会を体験する機会を設けるなどキャリア教育を充実させ、将来を見すえた進路指導を行う。 （2） 生徒一人ひとりが希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的にキャリアプランニング能力を高める取組みをすすめる。 ※学校教育自己診断における生徒の進路学習及び進路情報に対する満足度 85%以上を維持（R3：89.6% R4：89.1% R5：91.0%）
5 多文化共生社会で活躍できる力を育む （1） 日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜実施校3年目として、日本語指導が必要な生徒に対する日本語運用能力の向上や母語指導の充実、進路実現に向けての支援体制を整える。 （2） 学校経営推進費（R4より3年間）：「日本語教育推進校」としてのミッションを担うための環境整備計画をとおして多文化共生の学校づくりをすすめる。 ※学校教育自己診断における生徒「多文化共生について学ぶ機会がある」 80%以上を維持（R4より新規：76.7% R5：91.1%）
6 地域に根ざした信頼される学校づくり （1） 家庭や地域との連携強化により、多様な生徒を支える地域に根ざした多文化共生をすすめ、すべての生徒一人ひとりを大切に育てていく。 （2） 教職員が、心身共に健康な状態で生徒と向き合うことができるよう、学校における働き方改革の取組みをすすめる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○ 生徒の結果 は、22項目中20項目で肯定的回答が80%を超え16項目で90%を超えている。一方、否定的回答10%以上が6項目あり改善していきたい。学校生活については「入学してよかった」89.1%(84.4%)「学校へ行くのが楽しい」74.4%(74.2%)。授業関係では、「授業はわかりやすい、内容に満足」86.5%(84.4%)、「教え方に工夫」90.0%(86.6%)、「授業では積極的に学ぼうと思う環境が保たれている」81.2%(78.2%)、「学習での努力を認めてくれる」93.3%(89.0%)、「評価の仕方や基準を事前に示されている」93.6%(91.5%)、「学習評価について納得」95.0%(90.3%)であった。すべての授業で1人1台端末による学習支援クラウドサービス上のグループウェアの活用等、多様な学びの授業展開が進んだ結果と考える。 3年目の卒業生を出すことになり、卒業予定生徒にはきめ細やかな進路プログラムを実施した。結果「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定的回答が92.2%(88.7%)であった。「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的回答が91.9%(91.0%)となった。多様な生徒のニーズに合ったきめ細やかな情報提供を進めていきたい。生徒指導では、先生の指導は納得できる」91.9%(84.2)、「行事は楽しく行えるよう工夫」92.3%(84.7%)であった。生徒の意見を反映させより魅力ある行事にしたい。 ○ 保護者の結果 では、16項目中12項目で肯定的回答が80%を超えているが、「入学させてよかった」100%(97.7%)であったが、「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」は73.5%(62.2%)であり生徒のニーズの分析が必要。「懇談や通知で学力や到達度等分かりやすく伝えている」97.1%(93.3%)、「生徒指導方針に共感できる」94.2%(90.7%)、「命の大切さやルールを守る態度」88.3%(90.7%)、「保護者への文書・事務連絡等は適切」94.1%(95.5%)であったが、「家庭への連絡や意思疎通」79.5%(93.2%)でありより緊密な連携を心掛けたい。進路指導については、「進路や職業について適切な指導」97%(81.8%) (84.9%)であった。多様な進路選択に対応していきたい。 ○ 教職員の結果 では、「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」83.7%(92.3%)、「いじめが起こった際の対応」77.6%(92.1%)、「学校行事が生徒にとって魅力あるものへの工夫改善」89.7%(97.4%)、「教育活動について日常的に話し合っている」89.8%(92.3%)、「人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導」95.9%(84.2%)など10項中8項目で80%を超えてはいるが、いじめ対応や多様な課題をもつ生徒への指導等、教育課題は年々複雑化しておりこれまで以上にきめ細やかな対応が求められている。	【第1回】令和6年7月26日開催 ○会長・副会長の選出 ○令和6年学校経営計画に基づく本年度の取組みについて（学校長より） ・めざす学校像、中期的目標、本年度の課題について・2024年3月卒業生徒の広報用ビデオ（5分程度）の紹介 ○令和7年度使用教科用図書の採択について →意見なし、承認 ○大阪わかば高校の状況について（学校長より） ○全体を通しての委員からの意見・質問 ・5年間関わっているが、年々学校運営協議会の質が良くなっているようだ個別の進路指導等が充実していると感じる。 ・インタビュービデオが大阪わかば高校らしくていい。生徒が本音で話しているのがわかる。これで広報を充実させてほしい。教員含めみんなが育っていったような学校。生徒たちが自立していく様子も見た。良い雰囲気が出てきていると感じる。 ・生野区は5人に1人が外国ルーツという状況であり、増加傾向にある。行政や制度だけでなく、すべての生徒が学ぶ機会を町ぐるみで作っていくことが必要。大阪わかば高校の生徒にも関わってほしい。 ・インタビュービデオが素敵だった。直の声が中学生に届くことは大きい。大阪市内に限らず、府内に広げた方がリアルに伝わっていくだろう。是非とも広げていただきたい。 ・外国ルーツの生徒の中には日常会話に問題なくとも、進学後に学習面で苦しい部分が見つかるケースがある。生徒のその後の道を考えてとき、高校のことをさらに知る必要がある。中学生にとって、このようなインタビュービデオがあると高校への希望や期待が膨らむだろう。 【第2回】令和6年11月29日開催 ○大阪わかば高校の本年度の取組について（進路指導部長より） ○令和6年度学校経営計画に基づく本年度の取り組みについて（校長より） ○令和6年度学校教育自己診断について（教頭より）⇒質問項目については異議なし ○全体を通しての委員からの意見・質問 ・大阪わかばは先進的な取り組みをどんどん取り入れている。授業も含めて今後色々なことを取り入れてほしい。 ・多文化生が町会の敬老の日のイベントに来てくれ、民族ダンスを披露してくれた。大変ありがたい。 ・SST「アサーション」の考え方が非常に重要だと思う。卒業してからもこれは生かされていくと思う。 ・卒業式での送辞答辞を聞いていても、生徒たちの成長が垣間見える。先生たちが普段どれだけ関わっているのかもよく分かる。 【第3回】令和7年3月11日書面開催 1 報告 （1）学校運営協議会の運営に関する要綱等の改正について （2）学校教育自己診断の結果について（3）令和6年度学校経営計画の評価（案）について 2、協議 （1）令和7年度学校経営計画（案）について：委員より異議なし。承認された。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 「学び続ける力」の育成	(1) わかる喜びやできる楽しさを実感できる学習支援 (2) 安心して学べる学習環境の整備 (3) 教員の授業力向上	(1) - 授業のユニバーサルデザインを意識した授業づくりや、ICT 機器を積極的に活用したわかりやすい授業づくりを推進する。 - 学習支援クラウドサービスを活用した学習活動を発展させる。 - 授業に出席することの大切さのわかる授業づくり、評価の工夫を行う。 (2) - 安心して授業を受けることができるようルール・マナーを大切にした授業環境を整える。 (3) - 年に3回、授業見学月間を設定し、授業見学シートを活用する。 1人1台端末を活用した授業実践の研究をすすめる。 - やさしい日本語での授業実践等の授業研究をすすめる。	(1) ※ [] 内の数値は R5/R4実績 「授業はわかりやすく、内容に満足できる」80%以上を維持。[84.8% 89.1%] 「授業などで視聴覚機器やICT などを活用している」85%以上。[90.5%95.7%] 「教え方に工夫をしている先生が多い」85%以上を維持。[86.6% 97.8%] 「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」85%以上を維持。[89.0% 95.7%] 「学習の評価について納得できる」85%以上を維持。[90.3% 93.5%] (2) - 生徒向け学校教育自己診断「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」80%以上をめざす。[78.2% 91.3%] (3) - 授業見学月間の授業見学回数を2回以上授業見学シートを2枚以上作成。 ・活用の好事例の共有の研修の機会をもつ。 [教員研修4回]	(1) 「授業はわかりやすく、内容に満足できる」86.5%であった。不登校経験など学習経験の少ない生徒への指導が課題である。(○) 「授業などで視聴覚機器やICT などを活用している」。95.1%であった。「よく当てはまる」67.6%と回答。1人1台端末の有効活用をより進めたい。(◎) 「教え方に工夫をしている先生が多い」90%であった。「よく当てはまる」55%。(◎) 「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」93.3%であった。「よく当てはまる」は60.4%。(◎) 「学習の評価について納得できる」95%であった。「よく当てはまる」59.1%。(◎) (2) 「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」81.2%であった。「よく当てはまる」は40.8%であり、静かに学べる環境を整え授業規律等を高めていきたい。(○) (3) 11/22 大阪大谷大学教授を招いて授業改善研修を実施。・3/5 に AI 活用研修を実施(予定)。他初任者授業研修(2回)を実施。(○) - 授業見週間を年3回(6・10・1月)実施。見学シートの作成は、平均して約2枚であった。シートの交換により各授業での工夫や取組みの共有がすすんだ。(△)
2 「他者に関わり生きていく力」の育成	(1) SC、SSW 等の外部人材との連携による、きめ細かな教育相談体制および生徒指導 (2) 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーの習得と SST の活用 (3) お互いの個性の尊重 (4) ボランティア活動、地域連携などの取組。	(1) - 高校生活支援カードを活用するとともに、中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携を深め、課題を教職員が共有し、外部人材との協力により教育相談体制を構築する。 ・生徒の状況をさまざまな角度から観察し、丁寧な指導と温かみのある声かけにより、問題事象の早期発見、早期対応を心がける。 (2) - すべての教育活動において、社会のルールやマナーを学ぶ機会をつくりながら、SST をすすめる。 - 総合的な探究の時間、LHR、SST と群総合の内容がより効果的になるよう計画していく。 (3) - 自他を大切にする心を育むために、3R を大切にする取り組みを継続して行う。 - 人権学習や外部講師を招いた講演会を企画する。 - 多文化共生やネットリテラシーに関して LHR や行事等で学ぶ機会や講演会を企画する。 (4) - 校外外美化活動はじめ地域におけるボランティア活動の企画を行う。 - 近隣保育園、支援学校との交流の継続。	(1) - 生徒向け学校教育自己診断の教育相談満足度70%以上をめざす。[69.0% 78.3%] - 生徒向け学校教育自己診断の入学満足度80%以上を維持。[84.4% 95.7%] - 生徒向け学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は納得できる」80%以上を維持。[84.2% 95.7%] (2) - 生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」85%以上を維持。[92.7% 97.8%] (3) - 生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」85%以上を維持。[90.0% 95.7%] - 学校教育自己診断において「多文化共生について学ぶ機会がある」の項目設定。80%以上を維持。[91.9% 76.7%] (4) - ボランティア活動等の内容、回数がどうであったか。	(1) - 教育相談満足度 85.1%であった。SC・SSW 等専門職との連携を密にし、次年度は教育相談の組織体制をより充実させたい。(◎) - 入学満足度 89.1%であった。(◎) - 学校生活についての先生の指導は納得できる」91.9%であった。生徒の課題について中学校はじめ関係機関との連携を密に行うとともに、生徒に寄り添った丁寧な指導を心がけている。(◎) (2) 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」92.3%であった。「よく当てはまる」は62.6%。SST や人権学習を通して考える機会をつくることができた。(◎) (3) 「人権について学ぶ機会がある」93.3%であった。「よく当てはまる」は 62.5%。外部講師を招いて人権講演会や人権 HR を実施。生徒たちが考える機会をつくった。(◎) 「多文化共生について学ぶ機会がある」93.6%であった。「よく当てはまる」62.4%。日本語指導の枠校として3年目。外国にルーツをもつ生徒たちが学校内外の行事で自文化について発表する場が持てた。(◎) (4) 2/5 に学校周辺のクリーンアップ清掃活動を行った。また、地域での多言語絵本読み聞かせなど多文化共生の交流会にボランティアとして参加。多文化の授業で近隣の支援学校や町会連合会での授業交流会を行った。(◎)
3 「課題を乗り越える力」の育成	(1) 探究等の教育活動における SST の活用 (2) 外部人材を活用した多様な生徒への支援の充実	(1) - 総合的な探究の時間において計画的に SST を実施する。 (2) - 教員間で生徒の状況を共有しながら、SC、SSW、CC と連携して生徒支援を行う。 - 外部機関との連携も積極的に行う。	(1) - 総合的な探究の時間において教育産業と連携したプログラム、教科で作成した総合 SST と群総合が実施できたか。[総実施回数25回]。 (2) - ケース会議や、外部人材との連携により支援が適切に行われたか。情報共有が組織的に効果的に行われたかを検証する。	(1) - 水曜日3・4限に1年次向け SST を教育産業と連携して指導内容と教材をより充実させ年間4回実施。2年次以上では各教科で作成した総合 SST を全 25 回実施した。(○) (2) - SC、SSW、CC と連携し、ケース会議や生徒、保護者対応にも専門職の協力・助言により生徒支援を継続して行えた。(○)

府立大阪わかば高等学校

4「自分の将来を考える力」の育成	（１）将来を見すえた進路指導	（１） ・個別面談を丁寧に行い、一人ひとりの興味・関心を引き出し、それぞれの生活スタイルやペースに合わせた受講登録を通して将来について考える力をつける支援をする。 ・通信併修や技能審査・高認など外部単位の案内を丁寧に行う。 ・ガイダンス、講演、リモート見学会等、生徒一人ひとりが具体的な進路を見据えることができる取り組みを計画する。 ・外部講師、地域人材などを活用し、生徒の進路意識を高める取り組みをすすめる。	（１） ・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%以上を維持。[88.7% 97.8%] ・生徒向け学校教育自己診断「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」85%以上を維持。[91.0% 89.1%] ・外部講師や地域人材などを活用した授業や講演会などの回数（5回以上）。	（１） ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」92.2%であった。卒業予定生（秋卒業生6名を含む）65名中、進学35名（大学9名、短大4名、専門学校等13名、未定9名）、就職26名（学校斡旋15名）、その他4名。（◎） ・「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」91.9%であった。「よく当てはまる」61.3%。卒業予定生徒を中心に奨学金説明会、進学者・就職者向けの進路ガイダンスを実施。12/13には進路体験会を開催した。（◎） ・外部講師や地域人材などを活用した授業や講演会などの回数（5回以上）。 ・学校設定科目「シナジー生野」（前期）、「インターンシップ」（後期）や福祉関係の授業において外部講師からのお話や地域の施設への訪問等を10回以上実施できた。（◎）
5多文化共生社会で活躍できる力の育成	（１）日本語指導が必要な生徒に対する支援体制の構築 （２）多文化共生の学校づくり	（１）日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜実施校として、日本語指導が必要な生徒に対する母語指導の充実、進路実現に向けての支援体制を整える。 （２）学校経営推進費（R4）「日本語教育推進校」としてのミッションを担うための環境整備計画をとおして多文化共生の学校づくりをすすめる。	（１） ・日本語指導が必要な生徒の入学満足度の肯定的回答85%をめざす[98.1%95.5%] （２） ・学校教育自己診断における生徒「多文化共生について学ぶ機会がある」80%以上〔91.9%、76.7%〕	（１） ・日本語指導が必要な生徒の入学満足度の肯定的回答 92.3%であった。日本語指導卒校3年目となり3年間の支援体制が整った。卒業予定の多言語生徒15名のうち進学11名（四大5、短大4、専門2）就職4名が内定（◎） （２） ・文化祭での発表や地域での活動を行った。 ・「多文化共生について学ぶ機会がある」93.6%であった。5/8「多文化共生とは」、6/12「多文化共生講演会」、7/10「共生社会について」等総合HRで実施。（◎）
6地域に根ざした信頼される学校づくり	（１）地域との連携、生徒一人ひとりを大切に育てる ア. 受験生・中学校・地域向け広報の充実 イ. 多様な生徒たちの活躍の場づくり・居場所づくり （２）学校における働き方改革の取り組み	（１） ・HP等で入試関係や行事、学校生活について適宜発信する。 ・生徒会活動を通じリーダーを育成し、生徒が主役の学校行事の企画をすすめる。 ・wakaba カフェの継続と居場所となる図書館経営をすすめる。 （２） ・各種ソフトウェアやクラウドサービスを有効活用し、業務の効率化をはかる。	（１） ・内容、頻度がどうであったか。 保護者向け学校教育自己診断「学校は教育内容の情報を提供する努力をしている」80%以上をめざす[88.6%] ・学校行事への肯定的回答80%をめざす。 ・生徒向け学校教育自己診断「行事は楽しく行えるよう工夫されている」80%以上をめざす。[:84.7% 95.7%] （２） ・教職員の時間外労働時間数を20時間未満に維持。[R5:13.7H、R4:19.2H] ・ストレスチェック集団分析結果で「総合健康リスク」を100以下に維持。[R5：87 R4：81]	（１） ・保護者向け学校教育自己診断「学校は教育内容の情報を提供する努力をしている」85.3%であった。HP（ブログ）の更新回数は106回(1/29現在)。（○） ・学校行事の肯定的回答は、スポーツフェスティバル90.4%、カルチャーフェスティバル90.7%、校外学習93.1%で、平均は91.4%であった。（◎） ・「行事は楽しく行えるよう工夫されている」92.3%であった。（◎） ・外部支援組織と連携し wakaba カフェ（集団型）を前期3回、後期4回、wakaba どーなつ（個別支援型）を前期7回、後期7回開催した。（○） （２） ・教職員の時間外労働時間数は月平均13.5時間で昨年同様低い水準で維持されている、（◎） ・ストレスチェック集団分析での総合健康リスクは75と昨年度より大きく低減した。教育課題が多様かつ複雑であり業務量も多いが、同僚間の支援や協働性を高めることでより働きやすい教職員集団づくりを心掛けていきたい。（◎）